

## 日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修レポート

広島大学教育学部

杉本 彩楓理

2020年3月

### Guanajuato

3月4日から6日の三日間、グアナファトに研修として行ってきました。グアナファトと広島は2014年から友好関係を持ち、友好提携先として様々な面で関わりがあります。今回はグアナファト研修について書いていこうと思います。

---

#### 1日目：3月4日（水）

朝6:15 メキシコシティ発の長距離バスに乗り、グアナファト州レオンに向けて出発しました。到着したのは11時頃で、そのまま在レオン日本国総領事館に向かいました。総領事館では古川総領事代理にお会いし、メキシコにおけるグアナファトの役割や、日系企業がグアナファト・メキシコにおいてどのような影響を与えているか、また日本との関わりについてなど、短い間でしたが本当に様々なお話を聞くことができました。2011年の時点で、メキシコの日系企業

の数はわずか 14 社であったにも関わらず、2018 年には約 20 倍の約 280 社がメキシコに進出しているということで、それに比例して在留邦人数も増えつつあるそうです。そのため、グアナファトの街のあちこちで日本語の表示があったり、日本語教育の現場も急速に増加したり、日系企業の影響力を感じました。



これは車で移動しているときに見かけたのですが、「ようこそ」とスペイン語・英語・日本語・ドイツ語で書いてありました。

また、OXXO (こちらのコンビニ) でおにぎりが売ってあるのを見かけた時は感動しました。

在レオン日本国総領事館訪問の後、グアナファト州政府教育省を訪問しました。教育省の職員の方から、グアナファトの教育について説明いただいたり、質問をしたりなどとても有意義な時間になったと思います。グアナファトの教育システムは、修学年数は日本とあまり変わらないものの、子どもたちが将来どうなりたいか、を大切にされた教育がなされていると感じました。例えば、学校の授業の中に会社経営の科目や、ロボットについて小学生の頃から研究するプログラムなどがありました。一年に一度中国で行われるロボットコンテストに出場する機会もあるようです。私自身、教育学部に所属しているので、大変

興味深い内容でした。



そしてこの後は、マツダメキシコの社長・水谷様とヒロテックの副社長・岡本様との会食でした。お二方とも大変気さくな方で、広島企業のメキシコ進出について、またメキシコの生活について、楽しく意見交換をすることができたと思います。

---

2日目：3月5日（木）

午前中は、グアナファト大学の学生と「広島県とグアナファト州との繋がりをどう感じているか」というテーマでプレゼンテーションと意見交換を行いました。個人的にはこの意見交換会が一番楽しみで、また緊張もしていました。私の他に4人のグアナファト大学の学生がプレゼンテーションをしてくださいました。それぞれのプレゼンテーションが違った視点から広島県・グアナファト州を見ており、とても面白いものでした。肝心の私のプレゼンテーションもなん

とかうまくいき、学生のみみんなも広島にとっても興味を持ってくれたようでした。特に世界遺産の厳島神社に関して、実際に行ってみたいとの声が多く嬉しかったです。意見交換会の中でみんなと仲良くなり、また絶対にグアナファトに来ると約束しました。



午後は、まず Irapuato にあるグアナファト日本人学校を訪問しました。この学校は2019年4月に開校したばかりの学校で、メキシコ国内では3校目となる日本人学校です。前述の通り、日系企業進出による在留邦人数の増加を受けての開校となりました。ここに通う子どもたちは駐在員の子どもがほとんどで、現在全校生徒は小学1年～中学3年で約50名とのことでした。ここで勤務する職員の方は、ほとんどが文科省による派遣で着任しており実際の日本の指導要領に沿って教育が行われているそうです。なぜ日本の教育をメキシコで行うのか、とお聞きしたところ長山校長からは「日本に帰ることを前提とした教育であるから」との答えをいただきました。確かに、生徒たちと作ったという校歌には“ふるさと日本”と入っており、いつか日本に帰る日への希望が感じられ

ました。

その後は、グアナファト大学の学生2人と一緒にヒロテックさんを訪問し、工場見学を行いました。広島に住んでいながら、モノづくりと直接関わるのが少なかったため、今回の工場見学は私にとって新鮮で、またこの遠いメキシコに進出す



ることを決断した日系企業がなぜ進出を決めたのかなども気になっていたのですが、様々な要因が重なっていたのだと知り大変興味深かったです。ヒロテックさんは、自動車ドアや自動車排気システムのための排気口などを製造している会社で、また、「ツーリング」と言われる金型や設備の製造も自社で担っているそうです。製造ラインにはロボットも導入しており、効率化を図る自動化や従業員が疲労しないための工夫も多くなされていました。街を当たり前に走っている車も、自分たちがついさっきみた部品たちが集まってできているのだと考えると、ありきたりな感想かもしれないのですが不思議な気持ちになりました。

---

3月6日（金）

この日は、マツダさんのメキシコ工場を訪問しました。メキシコ工場は、メキシコのサラマンカにあり、想像していたよりもずっと大きく、ただただ圧倒されたこと



を覚えています。あまりに広く、工場を見て回るのになんとゴルフカートを使用しました。いくつものセクションに分かれていて、各セクションにおいてリーダーがひとつひとつ丁寧に説明してくれました。私が衝撃を受けたのは、とても広く壮大な製造ラインにも関わらずクライアントのオーダーに合わせた製品づくりが実施されているということでした。製造ラインの最後に部品などを置いておく倉庫があったのですが（倉庫ももちろんとんでもない広さです）、クライアントから注文が入ったらその都度部品をピックアップしたり、また製造ラインの従業員全員にわかるように工夫がなされたりしていて、日本のシステムの精巧さをここで感じました。広島、もとい日本だけでなく、世界でやっていくには必要不可欠な工夫であると思いました。

---

今回のグアナファト研修では、多くの“グアナファトと日本のつながり”を感じ

たように思います。ヒロテックさんとマツダさんの二つの工場見学では、会社こそ日本の会社だけれど、実際に製造ラインに立って最前線で仕事をしているのはメキシコの人たちです。どちらの会社でもメキシコの人々がいなければ、メキシコ工場での110万台製造達成はできなかった、とおっしゃっていました。そしてまた工場で働くメキシコ人の従業員の方々も、日本の企業で働けることを誇りに思って、感謝しているのがとても印象的でした。グアナファト大学に行った時も、日本に行ったことのない学生たちにも関わらず、広島にとっても興味を持ってくれました。広島県とグアナファトの間に友好関係があることも重要ですが、それ以上に人と人が強くつながっているのだと感じた研修となりました。このような研修に参加させていただいたことに感謝いたします。